

長門の People

家で栽培している野菜や、手作りの小物などを持ち寄り販売する「田ノ浦おげんき朝市」が4月2日、通の田ノ浦地区で店開きとなりました。この朝市は、地域の活性化になれば、と地元有志が発起人となり企画したもので、その中の一人、白石悦子さん（写真右端）にお話を聞きました。「この地区には、畑で野菜を作る家庭が多いんです。そこで作られた野菜を提供できる場所があればいいのに、と以前から思っていたのでこの



大忙しの会計も笑顔で乗り切りました

地域を元気にしたい 通で朝市がスタート

田ノ浦おげんき朝市

朝市を企画しました。市場が開けるほどの出品物が集まるかとても不安でした。でもアンケートを取ったり、呼びかけをする事で予想以上に出品物が集まり、たくさんのお客さんが来てくれてとても嬉しいです。高齢化が進んでいますが、朝市で少しでも地域が元気になるれば」と白石さん。この日はキャベツやわかめなどの新鮮な食材や手編みの帽子、財布などの小物が店頭並び、初回にもかかわらずたくさんのお客が訪れ、開店と同時に目当ての品物を買求めていました。出品者は現在31人が登録しており、朝市は毎週木曜日の朝8時から開かれます。



村田成海さん
(通小学校6年)

通には、伝統ある鯨唄が約400年前から引きつがれてきています。通小学校でも、鯨唄保存会の方に指導していただきながら、卒業した先輩から引きついできています。

毎年、通地区内では、運動会や敬老会・福祉祭りで、鯨唄を発表しています。昨年度は、5月に仙崎での「お魚まつり」、10月には長崎県平戸市生月町で行われた「鯨文化交流大会」でも発表しました。今年度も、4月26日の「くじらフェスティバルin下関」に参加し、いつくしみの心を



「お魚まつり」で鯨唄を披露

唄ってきました。鯨唄は、鯨を取るときの子が唄になっています。いさましい様子や、鯨に感謝している様子を唄っています。鯨唄を唄うとき、通小学校の児童31名は、みんな大きな声で唄っています。僕は、太鼓をたたいています。僕は、太鼓を2人で担当するので、リズムがずれないように心を一つにすることが大切です。通の伝統である鯨唄を、これからも大事に引きついでいきたいです。

連絡帳

定期演奏会を終えて

私たち大津高吹奏楽部は先日、ルネッサながとで第12回大津高等学校吹奏楽部定期演奏会を開催しました。今回注目していただいたかったのは、もちろん全ての演奏もですが、ラストの曲に基づいて制作した昭和時代の復元セットでした。しかし作るといっても春休みにも入っておらず時間が無い…。切羽詰まっていた私たちに協力してくださったのは美術部等文化部の人達、OBの先輩方でした。この人達の協力無しではこの定演はなかったと断言

おおしまさおり
大嶋沙織さん

(大津高等学校3年)



大津高校吹奏楽部の皆さん

できます。本番の演奏においては、課題とすべき箇所は多くあります。しかし演奏後の部員の涙、ライトに照らされたセット…。演奏技術は及ばずとも、それらや奏でた一音一音は、協力してくださった沢山の方々への感謝の念と、これまでの努力を物語っていたのではないのでしょうか。この度、定期演奏会にお越しくださった皆さま、本当にありがとうございました。そして、定期演奏会開催に向けて携わった全ての方々に「最高の思い出をありがとう」。

ご来館、お待ちしております！

安倍伸さん(財長門市文化振興財団勤務)

※仕事は 1月からルネッサながとでイベントの企画運営を担当しています。チラシ作りや出演者との打ち合わせ、チケット販売など覚えることがたくさんあって勉強の毎日です
※趣味は 読書ですね。世界史や科学の本が好きです
※好きなタイプは 優しい人がいいですね
※結婚は 今はまだ考えられないです！



※自由の一言 素晴らしい舞台機構を備えたこのルネッサながとにぜひお越し下さい。みなさんのご来館をお待ちしています

熱血
新戦力

連絡帳

通の鯨唄を引きついで